

高等学校日语教材

大学日语阅读

主编 嘎日迪 包海明
大连外国语学院日语学院组织编写



大连理工大学出版社

726

高等学校日语教材

大学日本语阅读

嘎日迪 包海明 主 编

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

大学日本语阅读/嘎日迪,包海明主编. —大连:大连理工大学出版社,2000.8

(高等学校日语教材)

ISBN 7-5611-0430-8

I. 大… II. ①嘎… ②包… III. 大学-日本語-教材
IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2000)第 05218 号

大连理工大学出版社出版发行
大连市凌水河 邮政编码 116024
电话:0411-4708842 传真:0411-4708898
E-mail: dutp@mail.dlptt.ln.cn
URL: <http://www.dutp.com.cn>
大连业发印刷有限公司印刷

开本: 850×1168 毫米 1/32 字数: 249 千字 印张: 10
印数: 1—6000 册

2000 年 8 月第 1 版 2000 年 8 月第 1 次印刷

责任编辑: 王佳玉 责任校对: 长方柘
封面设计: 金 中

定价: 14.00 元

前 言

大学一、二年级的基础日语学习结束后,如何进一步提高自己的日语水平?这是广大日语爱好者普遍关心的问题,也是摆在从事基础日语教学者面前的一个现实问题。

在现实的语言学习过程中,掌握好一门语言技能并非易事,必须经常模仿,自觉实践,反复多次才能得以形成。可以说语言能力的培养是一个广泛阅读,反复练习,不断积累,潜移默化的过程。

生活在汉语大环境中的日语学习者,学习日语的条件毕竟有限,这就要求每位日语学习者依靠最现实的物质基础,即丰富的图书文字材料,去克服初级阶段语言技能上的障碍。我们要清楚地意识到,阅读是获取知识的主要手段。广泛阅读日语图书文字资料,方能克服母语的干扰,以期达到全面发展和提高的目的。当然,简单的阅读也不会达到如期的效果,非有相当大的阅读量不可。

日语技能的培养和形成绝对离不开知识的积累,语言知识是培养语言技能的木之本,水之源。因此,要深刻地认识到吸取语言知识的重要意义。语言知识的积累,尤其是单词、词汇的积累,是培养语言技能的物质基础。如若不加强语言知识的积累,绝对形成不了高的语言技能。我国古代文人对学习诗(也是语言)有不少经验之谈。如:“熟读唐诗三百首,不会写诗也会吟”,“读书破万卷,下笔如有神”等等。很显然,古代文人对阅读极为重视。学习日语也是如此。试想,如果学生没有丰富的语言知识,哪里还谈得

上听得准,说得明!

鉴于此,笔者编写了这部《大学日本语阅读》教材,旨在为学完基础日语的学生或其他同等水平的日语学习者(诸如大专自考生、夜大学员或自学者等)提供一块丰富日语知识的园地。通过对本教材的学习,可以巩固和提高大学一、二年级时所学的语言知识,进一步扩充词汇量,熟悉日语的多种表达形式,进而达到提高自我的目的。

《大学日语阅读》在编写过程中,尽量考虑到所选文章的思想性、知识性和趣味性。为使学生在没有教师指导的情况下亦可自学,我们对文章中的一些难读难懂或不易查找的词语、人名、地名及课文重点文法·句型等做了适当注释,并附有参考译文,供读者参考。

由于编者水平有限,书中不妥之处在所难免,敬请同仁和广大读者批评指正。

本书编写过程中曾得到大连外国语在读研究生徐文智同志的大力协助,在此谨表谢意。

编 者

2000年8月于大连外国语学院

目 录

前言

第 1 課	人生と練習……………	小泉 信三	1
第 2 課	二つの心……………		18
第 3 課	命をかけて……………		34
第 4 課	アリの智恵(日記と記録)……………		52
第 5 課	最後の授業……………	アルフォンス・ドーデー	69
		桜田 佐 訳	
第 6 課	故郷……………	魯 迅	86
		竹内 好 訳	
第 7 課	藤野先生……………	魯迅	116
		竹内 好 訳	
第 8 課	春の日のかげり……………	島尾 敏雄	134
第 9 課	日本語は「あいまい」か?……………		153
第 10 課	日本語の挨拶ことばを考える……………	劉徳有	167
		村山 孚 訳	
第 11 課	文明の国スウェーデン……………	中根千枝	192
第 12 課	近代の夜明け……………	吉田精一	218

附录

参考译文……………	235
文法・句型索引……………	306

第 1 課 人生と練習

——不可能を可能にする——

小泉 信三

このごろある所で「人生と練習」という題で話をした。ここでも同じ主題について語ってみたいと思う。

練習とはいってもなく、野球の練習、ゴルフの練習、ピアノ・バイオリンの練習をするという、その練習である。すもうや柔道や日本の芸能では練習と言わず、けいこと言うが、つまり同じことで、要するに一つのことを繰り返して、心身をそれに慣れさせ、今まで不可能であったことを可能にすることにほかならぬ(1)。

孔子は、「学ビテ時ニコレヲ習フ、マタヨロコバシカラズヤ。」(2)と言った。この習うという習、すなわち「羽の下に白」は、ひな鳥が羽ばたいて飛翔を習う形を表したものとかが言うが(3)、この習がすなわち練習の習である。この練習ということによって人間の能力が高められ、不可能が可能になってゆくそのことに、私は従来格別の興味をいだいている。

人類の歴史は、さまざまの見地から見ることができるが、大観すれば、それは人類が無数の不可能を可能にしてゆく道程と解することができる。その、不可能を可能にする手続きを、私は二つと見る(4)。一は発明により、一は練習による(5)ものである。そうして、今日までに無数の不可能が可能にされてきたし、

今後もされてゆくであろう。たとえば、鳥のごとく(6)空を飛び、魚のごとく水をくぐるということは、人類というものがあって以来の宿願だと言える。しかも今日、われわれは飛行機により、潜水艦によって、どんな鳥よりも、どんな魚よりも、より(7)よく空を飛び、水をくぐる。月の世界に遊ぶということは、久しく実行不可能の空想の別名であった。しかし、今日われわれは、きのう月世界から帰ってきたという者に出会っても、もはやさほどは驚かぬ段階に達している。

このように、発明によって不可能が可能となってゆくそのかたわらに、また無数の不可能が練習によって可能にされてゆく。現に飛行機によって空が飛べ、潜水艦によって深海にくぐると言っても、ただそこに飛行機や潜水艦があるだけでは、われわれには空も飛べず、水もくぐれない。それをするには非常に厳しい練習をしなければならぬ。二年前、私はアメリカで宇宙飛行の研究所を参観することを許されたが、そこにはわれわれが見ても聞いてもわからぬような複雑な機械や装置が設けられているとともに(8)、それによって宇宙に飛ぶ飛行士は、非常に困難、かつ厳しい訓練をそこで受けるのである。その練習によって不可能が可能になる。そのことをもう少し語ってみたい。

早い話が水泳である。生まれたまま(9)の人間は、水に落ちれば、水におぼれて死ぬ。水泳を練習した者は、ほとんど無意識に手足を動かして浮



かぶ。この練習をすると否とによって、人は浮かびもすれば、おぼれもする(10)。水に落ちればおぼれて死ぬ動物から、浮かんで生きる動物になるということは、考えてみれば非常なことで、これは別種の生物になるというほどの飛躍であるが、人類をし

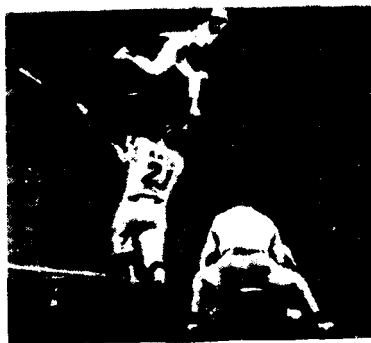
てこの飛躍をなさしめる(11)ものは練習である。練習の有無によって人は生きもすればおぼれもするとなったら、それはいやでも考えなければならぬ。さらに目の前で幼児が水に落ちて死にかけののを、手をこまぬいて見ていなければならないか、あるいは水に飛び込んで救助するか、それができるか、できないかは、これは道徳的にも非常な違いと言わなければならぬ。

このように、練習によって不可能が可能になる実例は、われわれの身边を見回せば、ほとんど無数にある。たとえば、野球の心得のない人の前に、ボールをころがせば、たいていの方は、申し合わせたように、ボールの通過したあとの空気を両手でつかむ。もしこれが常人であるとすれば、非常な速さで飛来するボールをバットという棒でうち当てるということは、超人のしわざと言えるであろう。打つほうもそうだが、投げるほうも大変なことである。野球の投手板から本塁までの距離は約十八メートルであるが、その十八メートルのかなたにあるホームベースの幅は四十八センチメートルである。ゴロを取ろうとして、両手で空気をつかむ普通人から見れば、ボールを十八メートルのかなたから投げて、所定の高さでこのベースの上を通過させることは思いもよらぬであろう。いわんやそのボールを、思うとおりまっすぐにも飛ばせれば、自由に途中から右にも左にも曲がらせるとあつては(12)、ほとんど信じがたいと言うよりほかない(13)であろう。しかし練習は、われわれにこの不可能を可能にさせるのである。

スポーツのことばかりではない。有名な物理学者、故寺田寅彦(てらだ とらひこ)の書いたものに、天文学者が天体を観測するのに、非常な速さで望遠鏡面を飛過する物体を目でとらえることは、初めは容易でないが、練習によって、やがてゆっくりそれを見て、カードに記入することができるようになるという例

を語ったものがあつたと記憶する。学問研究の作業の上でも、練習によってこのとおり不可能が可能になる例は無数であろう。

練習は、このように、不可能を可能にする。そこで言いたいのは、それは普通に言う肉体的能力のこのみではなく、われわれの精神的能力もまた当然練習によって高められるということである。わかりやすいから、またスポーツの例を引く。水泳の



飛び込みについて見る。飛び込みは確か(14)十メートルの高さから行くと承知している。しかし、どんな豪傑でも、初めて高さ十メートルの台の端から足もとの水を見下ろせば、初めは足がすくむであろう。十メートルの高さから落ちた物体が水をたたく力は、相当激しいもので、飛び込み選手がかぶっている布の帽子が、だんだん練習を続けている間にさけてボロボロになるという話を聞いたことがある。それはとにかく、あの高さから水へ飛び込むということがいかに激しい衝撃であるかは言うまでもないことで、天性豪胆な人でも、初めてあの飛び込み台の端に立って平気(15)だという者は、おそらくあるまい。ところが、練習をした青年たちは平気である。男子ばかりではない。妙齢の女子も平気である。そうしてあの高い台の端から身をおどらして姿勢をくずさず、もっとも水の抵抗の少ない形、すなわちもっとも美しい形で水中に突入する。飛び込み台の端に立って、足がすくんで座りこんでしまうのが凡人なら、彼らは皆非凡人である。台の上にすわってしまうのが常人なら、彼らは皆絶倫の勇者で

ある。その勇氣は、なるほどごく単純な勇氣かもしれないが、しかし、恐れに屈しないという、立派な人間の美德である。そうしてこの徳は、かく、練習によって養われ、もしくは高められることが明らかである。その限りにおいて、練習は道德上にも不可能を可能にするものである。

道德の要義は練習にあると言ったら、それはいかにも奇をてらったように聞こえるかもしれないが、練習によって、水におぼれたものが水に浮かびうるように(16)、練習によって、たとえば百メートル競走十五秒台(17)を十三秒台もしくは十二秒台に縮めうるように、たとえば困難を避けず、危険を恐れず、自ら信ずるところを言い、言うところを行う能力も、また当然練習によって高められると言いうるはずではないか。

こう考えてくると、練習ということがわれわれの人生にいかに大きい意義を持っているかが理解されると思う。

ただ、練習ということは、決してらくなものではない。それは努力と忍耐とを必要とすること、水泳の練習一つとっても、じゅうぶん明らかであろう。したがって、努力と忍耐とをきらい者には、真剣な練習はできない。そのような練習ぎらいはいつの世にもあるが、ただ終戦以来、これに民主主義の名をつけることが行われたようにみえるのはどうであろう。つまり努力しないこと、忍耐しないこと、一般になまけること、らくをすることが民主的だと、あるいは誤解し、あるいは誤称するのである。民主主義はしばしば安逸の口実にされた。戦後の日本に水火の災害、鉄道・船舶等の事故が相次いで発生したについて、私はいわば「民主的」弛緩に帰すべきものが少なくはなかったかと疑う。日本人のスポーツの成績不振の中にも、同じ原因に帰すべきものが、決してないとは言われぬ。私の見るところ、ある

種の競技種目の不成績は、確かに練習不足(先人に比しての明らかな練習不足)の結果である。

もし前に述べたように、ひとり(18)肉体的能力のみでなく、われわれの精神的能力もまた明らかに練習によって高められるとすれば、練習軽視のふうは(もしそのようなものがあるなら)民族のあすのためじゅうぶん相(19)戒めなければならぬものである。一つ(20)日本人として考えなければなるまい。



㊦ 作者紹介:

小泉信三(こいずみしんぞう)

1888(明治21)～1966(昭和41)経済学者。教育家。東京に生まれた。少年時代、福沢諭吉にかわいがられ、父の死後はなにかとその庇護を受けた。慶応普通部を経て、慶大政治科に進み、経済学を専攻、かたわら文学にも興味を持った。大正元年ドイツ・イギリスで社会学・経済学を学んだ。五年帰国後、母校の教授となり、昭和8年慶大の塾長に就任。この間、「価値論と社会主義」「マルクス死後五十年」などの著書がある。いらい二二年までその任にあり、深い学識で信望を集めた。三四年文化勲章受賞。随筆家としても知られ、「読書雑記」「朝の机」「わが日常」など多数の著書がある。

㊦ 词汇

ゴルフ[golf]

高尔夫球

ピアノ[piano]

钢琴

バイオリン[violin]		小提琴
相撲[すもう]		相扑,角力;相扑运动员
柔道[じゅうどう]		柔道
芸能[げいのう]		艺术技能,艺术,文艺
ようするに	(副)	简而言之,总之
稽古[けいこ]		练习,练功
雛鳥[ひなどり]		雏鸟,雏鸡
飛翔[ひしょう]		飞翔
従来[じゅうらい]		从来,一贯,向来
様様[さまさま]	(形动)	各种各样,种种,形形色色
大観[たいかん]		概观,通观
道程[どうてい]		路程,距离
宿願[しゅくがん]		夙愿,宿愿
月世界[げっせかい]		月球
最早[もはや]	(副)	已经
然程[さほど]	(副)	(下接否定)(不)那么
潜水艦[せんすいかん]		潜水艇
現に[げんに]	(副)	现在,刚才,实际
研究所[けんきゅうじょ]		研究所
装置[そうち]		装置,设备
早い話が[はやいはなしが]	(词组)	简而言之
且つ[かつ]	(接续)	而且,并且
別種[べっしゅ]		别种,另一种
飛躍[ひやく]		飞跃
死(し)にかける	(下一自)	濒死,将死
手を拱(こまぬ)いて見る	(词组)	袖手旁观

心得[こころえ]		须知, 常识
身边[しんぺん]		身边
ボール[ball]		球; (棒球) 歪球, 斜球
もうしあわせる	(下一自)	商量, 协商
常人[じょうじん]		常人, 普通人
バット[vat]		(棒球) 球棒
超人[ちょうじん]		超人, 杰出人物
仕業[しわざ]		所作所为, 做的事情, 行为
投手板[とうしゅばん]		投手踏板
本塁[ほんるい]		本垒
彼方[かなた]		那边, 彼岸
ホームベース[home base]		(棒球) 本垒
グロ		(棒球) 地滚球
所定[しよてい]		指定, 规定
思(おも)いもよらない	(词组)	万没想到, 做梦也没想到
況や[いわんや]	(副)	何况, 况且
寺田寅彦[てらだとらひこ]		(1878~1935) 物理学者、随笔家。东京生、东京大学教授
天体[てんたい]		天体
望遠鏡[ぼうえんきょう]		望远镜
飛過[ひか]		飞过
カード[card]		卡, 卡片
記憶[きおく]		记忆
作業[さぎょう]		作业, 工作
肉体[にくたい]		肉体

飛び込み[とびこみ]		跳水(体育)
豪傑[ごうけつ]		豪杰
足(あし)がすくむ	(词组)	两腿发软
飛び込み台[とびこみだい]		跳板(体育)
ボロボロ		破破烂烂,破烂不堪
如何に[いかに]	(副)	如何,怎样,用什么方法
衝撃[しょうげき]		冲击
天性豪胆[てんせいごうたん]		天性胆大
平気[へいき]		不在乎,不怕,冷静,镇静
妙齡[みょうれい]		妙龄,豆蔻年华
突入[とつにゅう]		突入,冲进,进入
凡人[ぼんじん]		凡人,庸人
絶倫[ぜつりん]		绝伦无比
斯く[かく]	(副)	如此,这样
用義[ようぎ]		要旨,中心思想
奇(き)をてらう	(词组)	标新立异,炫乎
忍耐[にんたい]		忍耐,耐性
終戦[しゅうせん]		战争结束
誤称[ごしょう]		误称,错称
口実[こうじつ]		借口,口实
楽(らく)をする	(词组)	图清闲,找舒服
安逸[あんいつ]		安逸
船舶[せんぱく]		船舶,船只
相次いで[あいついで]	(副)	相继,一个接一个
弛緩[しかん]		涣散,松弛
帰す[きす]	(自)	归于,归结;归罪,归咎
競技[きょうぎ]		竞技,比赛

㊦ 文法・句型

(1) にほかならない

上接动词连体形、名词、接续助词“から”。书面用语。

这个句型表示断定事物只能如此、并非其他。相当于汉语的“不外乎……”，“无非是……”的意思。

△事故の原因はスピードの出しすぎにほかならない。/事故原因无非是速度太快了。

△彼の今の成果は、長年の努力のたまものにほかならない。/他今天的成功，不外乎是长期努力的结果。

△彼が盗んだのにほかならない。/无非是他偷的。

△今朝の気温が低いのは寝ている間に雪が降ったからにほかならない。/早晨气温低，不外是由于睡觉期间下了雪。

(2) 「学ビテ時にコレヲ習ふ、マタヨロコバシカラズヤ。」

孔子语录。子曰、「学而時習之、不亦説乎。」

(3) ～とか言うが

上接名词、句子或词组，表示不确切的传闻内容。与「と言うが」意思相同。只是带有此语“不确切”、对此话言者“没有把握”的语气。这里的「か」是副助词，表示不确切的意思。

△お留守とかうかがいましたが。/我听说是您不在家。

△来月中に日本へ行くとかいう話です。/说是下个月去日本。

(4) と見る

「と」是格助词。这里表示思考的内容。「～と見る」可译作“看作”，“认为”。这个「と」与句型「～と思う・言う・考える・答える」等中的「と」同属一类，都表示“引用、思维、称谓”的内容。

△私は二つと見る。/我认为(内容有)二条。

△私はごまかしと見る。/我认为是个欺骗。

△君は私をいくつと見るかね。/你认为我有多大岁数。

(5)による/によって

上接名词。下接名词,做定语时用「～による」形式。下接动词,做状语时用「～によって」形式。另外,「～によって」有时也用「～により」形式。均属书面用语。

「～による(によって)」表示“原因、理由”、“手段、方法”、“根据”、“依据”、“与性质、内容有关”等意思。在被动句里表示动作、作用的主体。相当于汉语的“由于……”,“通过……”,“按照……”,“根据……”,“靠……”,“用……”,“在于……”,“取决于……”,“与……有关”等意思。

「によって」的例句:

△交通事故によって死んだ人が多い。/由于交通事故而死亡的人很多。(原因)

△不注意によって大けがをした。/因不小心受了重伤。

(原因、理由)

△話し合いによって問題を解決する。/通过协商解决问题。

(手段、方法)

△自分の労働によって生活する。/靠自己的劳动生活。(手段、方法)

△国によって習慣が違う。/各国习惯不同。(与性质、内容有关)

△考え方は人によって違う。/思想方法因人而异。(与性质、内容有关)

△正月は年によって温泉で過ごしたりする。/有的年份在温泉过新年。(与性质、内容有关)

△エジソンによって発明された。/爱迪生发明。

△実践によって証明された。/实践证明。